HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	札幌農学校簿書とその周辺
Author(s)	山本, 美穂子
Relation	創立期大学史資料の特色 : 2007年度全国研究会の記録　於：成蹊学園（研究叢書 第9号）. pp.47-61
Issue Date	2008-10-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35087
Type	journal article
File Information	yamamoto1.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

研究報告

札幌農学校簿書とその周辺

北海道大学大学文書館
山　本　美穂子

はじめに

北海道大学は、1876（明治９）年開拓使が設置した札幌農学校を創基としている。札幌農学校に係る公文書は「札幌農学校簿書」と呼び、これまで附属図書館北方資料室が保管し、一般利用に供してきた。この「札幌農学校簿書」について、2007年８月31日、附属図書館から大学文書館への移管が決定した。

本報告では、「札幌農学校簿書」の特色を紹介するため、大学文書館における“学業史”の視点からの「札幌農学校簿書」の活用事例を述べることとする。

１．北海道大学の大学沿革資料

⑴　北海道大学の沿革

1876（明治９）年、札幌市街の中心（現在の札幌市中央区北１～２条西１～２丁目）に開学した札幌農学校は、1907（明治40）年、東北帝国大学農科大学（同帝国大学理科大学は仙台に新設）に昇格した。1918（大正７）年には、東北帝国大学から分離独立して北海道帝国大学が発足し、東北帝国大学農科大学は北海道帝国大学農科大学となった。翌年には農学部（農科大学を改称）・医学部を設け、1924年に工学部、1930年に理学部、1947年に法文学部を増設し、

旧制大学の時期には５学部を有する総合大学に拡張した。

1949年、新制の北海道大学となり、７学部（法文、教育、理、医、工、農、水産学部）をそなえた。現在では、学部組織として12学部（文、法、経済、教育、理、医、歯、薬、工、農、獣医、水産学部）、大学院組織として８研究科・８研究院・７学院・１教育部・２連携研究部を有している。

(2) 大学沿革資料の保管組織

2005年５月、北海道大学は、北海道大学に関する文書・資料を収集、整理、保存、調査研究を行なう独立した組織として、北海道大学大学文書館（以下、大学文書館と略す）を設置した。大学文書館の設置以前は、附属図書館が、大学沿革資料の収集・保管の役割を果たしてきた。

附属図書館では、北海道大学史の一次資料として創基50周年から活用されてきた「札幌農学校簿書」をはじめ、創基100周年記念刊行物『北大百年史』編纂の際に「百年史編集室」が収集した個人資料群などを、1971年館内に開設した「沿革資料室」（現在、附属図書館北方資料室内に所在）で保管してきた。現在、それらの大学沿革資料群のうち、図書・雑誌以外の大学沿革資料群（公文書類［簿書］、写真、新聞スクラップ、受講ノート、書簡等）については、順次、大学文書館へ移管を進めている。

(3) 大学沿革資料の概略

大学文書館が所管している新制大学以前の簿書（公文書）を表１に示した。創設期の沿革文書として中核をなす「札幌農学校簿書」は999点を数える。なお、「札幌農学校簿書」については次章以降で詳述する。

「演習林簿書」、「農場簿書」は、農学部改修工事に伴い、2005～2006年にかけて、農学部から大学文書館へ移管となった文書群である。「寄宿舎・恵迪寮関係資料」は、『恵迪寮史』編纂後に附属図書館が保管、2006年に大学文書館へ移管となった。いずれの簿書・資料群も、札幌農学校以来の組織の特色を発揮するものである。

表１　大学沿革簿書一覧（大学文書館所管、1870～1940年代）

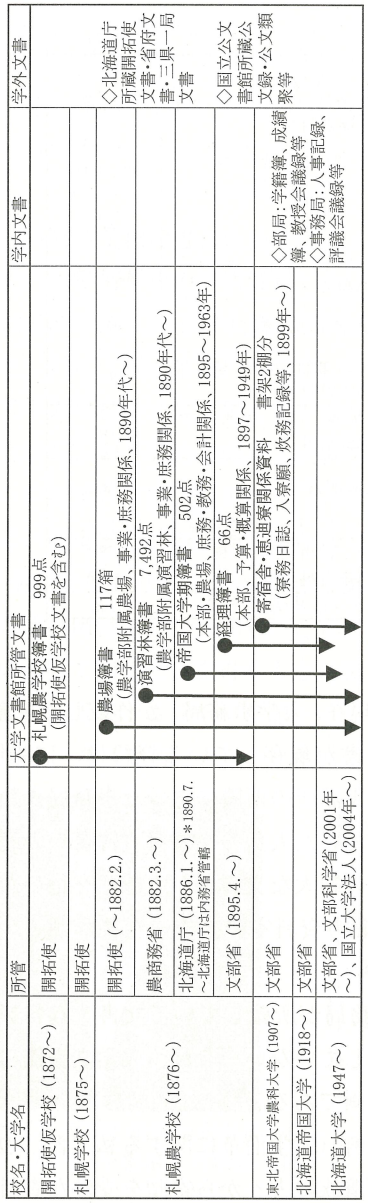


表２　帝国大学期簿書分類表

大分類	小分類	内容	点数
総務関係	行事	行幸・行啓、四大節、紀元2600年関係等	14
	戦時（総務）	防空、事変、軍部関係	19
	法規	学則、規程、細則類	13
	会議録	評議会、帝国大学事務協議会	3
	研究	研究報告	8
	年報・一覧	年報・一覧原稿及び資料	13
	沿革	年譜・印譜等	4
	総務（事務一般）	庶務綴・雑件等	53
	総務（事務処理）	送付簿、発信番号簿等	4
会計関係	用度	運動場使用、構内指定商人簿等	4
	会計（事務一般）	公文書綴	2
教務関係	戦時（教務）	教練、集団勤労、徴兵猶予、引揚学徒関係	9
	講習	社会教育公開講演会、中等教員夏季講習会、成人教育講座等	20
	臨教	第16臨時教員養成所関係	7
	教員検定	中等教員無試験検定願	2
	学生監	学生監室事務協議会	1
	学校長会議	高等学校長会議	1
	学生団体	集会・出版届、学生課日誌等	14
	留学生	中国、「満州」留学生関係	7
	入試	出欠簿、入学志願者名簿、願書、試験問題等	148
	授業	教官担当学科目、授業時間数、教科書関係等	9
	試験	時間割、試験関係書類	2
	在籍	出欠簿、学生生徒名簿、証明書下付台帳等	13
	大学院	大学院関係書類	1
	処罰	処分関係書類	1
	教務（事務一般）	入退学・成績・卒業関係書類等	16
	調査・参考（教務）	諸調査関係書類等	12
人事関係	戦時（人事）	召集免除、証明書関係	3
	採用	看護婦入所票等	3
	任免	図書館委員会	1
	出張	復命書等	13
	手当	勉励賞与調書、行政整理関係書類等	3
	調査（人事）	教員個人調等	9
	人事（書類一般）	秘書雑件等	26
	人事（事務処理）	欠勤届賜暇願	1
農場関係	農場（法規）	例規綴	11
	農場（行事）	小作農場成墾二十五年式典関係書類	1
	農場（出張）	復命書等	1
	農場（総務、事務一般）	雑件書類等	10
	農場（総務、事務処理）	発来翰綴	1
	農場（会計、書類一般）	会計検査関係書類等	6
	農場（会計、農場経営）	小作料調書、土地移動関係書類等	13
		計	502

表3　個人資料一覧(大学文書館所蔵)

資料群名	内容	数量
佐藤昌介・佐藤昌彦関係資料 (昌介:農学校1期卒、初代総長) (昌彦:農学部助教授)	昌介:日記、書簡、新聞スクラップ等 昌彦:日誌、原稿、オリンピック・東北学院大学関係資料等	195点
高岡熊雄関係資料 (農学校13期卒、第3代総長)	日記、手帳、書簡、写真、アルバム、受講・講義ノート、原稿等	約2,400点
平塚直治関係資料 (農学校14期卒)	受講ノート	4点
半澤洵関係資料 (農学校19期卒、農学部教授)	日記、講義ノート、原稿、スケッチブック、顕微鏡等	約170点
川嶋一郎関係資料 (農学校23期卒)	日記、書簡、アルバム等	31点
中島九郎関係資料 (農科大学1910年卒、農学部教授)	書簡、辞令・証書類、原稿、写真、創基50周年関係資料等	385点
大杉冨美子関係資料 (理学部1943年卒)	学生手帳、写真、ノート、日本女子大学校関係資料等	約100点
文武会新聞部員関係資料 (医学部1942年卒)	写真、身分証明書等	19点
医学部薬学科1期生関係資料	受講ノート、レポート、試験問題等	113点
学生運動関係資料[1956～63年]	ビラ、小冊子、新聞記事、写真	28点
教育学部名誉教授関係資料1	教育学部沿革資料	40箱
教育学部名誉教授関係資料2	学生運動・大学改革関係ビラ等	1箱

「帝国大学期簿書」は、主に、大学本部（現在、大学事務局）が作成した庶務・教務・会計文書類である（表２）。この簿書が現存している経緯は、1980年、大学事務局の増築と北海道大学南門脇の巡視詰所の西隣にあった事務局書類保存庫（旧奉安殿）の解体に際し、収納されていた大量の文書綴（簿書）の廃棄が決定、南門前に山積みにされた廃棄予定の膨大な文書を、危機感を抱いた有志の職員が約500冊拾い出し、附属図書館北方資料室のスチール製戸棚３つに収容してきたことによる。

なお、学内の教育研究組織（部局）・事務局が所蔵している文書・資料類については、現時点では全体数・内容を把握していない。今後、大学文書館において、順次、調査を進めて移管を進める計画である。

一方、大学文書館が所管している個人資料（大学沿革に関する私文書）の一部を表３に示した。卒業生・元教員及びご遺族の方々から寄贈を受けた資料群

（日記、写真、書簡、新聞スクラップ、辞令、受講・講義ノート、原稿、学生運動ビラ等）である。大学文書館では、開設時より積極的に個人資料（私文書）の収集を進めている。個人資料（私文書）と簿書（公文書）は、大学沿革資料の両輪である。

２．札幌農学校簿書について

(1)　大学沿革史の一次資料

創基50周年に際し、北海道帝国大学は、『創基五十年記念北海道帝国大学沿革史』（以下、『沿革史』と略す）の刊行を決めた。邦文沿革史編纂事業は、記念式準備事務中、最も早く着手された。1925（大正14）年６月、出版係全委員が集合し、編纂会議を開き、大綱を決定した。沿革史の内容構成は、農学部教授の宮部金吾（出版係主任）、高岡熊雄（同係副主任）、中島九郎（同係）が担当し、沿革史編纂の実務にあたったのは中島九郎であった（図１）。

「過去を記述するのに当り専ら第一次的文献に遡ることを努む」（『沿革史』出版委員例言１頁、1926年）と宣したように、出版係は『沿革史』を北海道大学史として初めて公文書をもとに編纂した。主たる一次資料としたのは、附属図書館が所蔵する「壬申日記」・「壬申雑記」（開拓使仮学校当時の記録）、1872（明治５）年～1925（大正14）年に至る公文書等であった。これらが、現在、「札

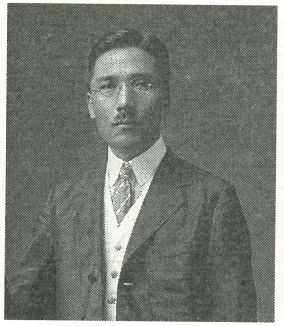


図１『創基五十年記念北海道帝国大学沿革史』を編纂した中島九郎
(1922年撮影。越山澄子氏提供)



図２　積み上げられた札幌農学校簿書
簿書横の人物は図書館司書の柴田定吉
(1926年4月26日付『小樽新聞』)

幌農学校簿書」と呼称する公文書群である（図２）。

その後、北海道大学は、北海道大学史として、八十年史、九十年史、百年史、百二十五年史を刊行した。いずれの刊行物も、創設期沿革史の一次資料に、「札幌農学校簿書」を採用した。特に、創基100周年の際には、史料集にあたる『北大百年史』札幌農学校史料（一）、同（二）を1981年に刊行して、「札幌農学校簿書」の覆刻（抜粋）を行ない、目録（簿書名、年代）及び解説を掲載した。

(2) 札幌農学校簿書の概略

「札幌農学校簿書」は、内容別に列挙すると、下記のとおりである。それらは、札幌農学校に係る庶務・教務・会計全般にわたる文書群、附属施設の農園（農黌園）経営に係る文書群が多くを占めている（図３、図４、図５）。

＜開拓使仮学校期＞

◇公文録（規則類、伺指令、庶務に関する往復文書、生徒に関する教務書類等）◇入校関係書類　◇生徒名簿　◇日誌（学校掛による日記、当直日誌等）◇宿直簿など

＜札幌学校期＞

◇公文録　◇試験表　◇当直日誌　◇会計関係書類(会計簿、経費表等)など

＜札幌農学校期＞

◇公文録　◇復命書綴　◇入校関係書類　◇生徒名簿　◇生徒諸届綴　◇成績表　◇授業科目・試験表　◇修学旅行報文　◇図書目録　◇当直日誌　◇出勤簿　◇使送関係書類（公書受付簿、郵便差立簿等）　◇用度関係書類（器具物品受取控・管理簿・払下簿、修繕関係書類等）　◇会計関係書類（予算・経費書類、統計等）◇農黌園・農園関係書類（往復文書、伺書類、開墾・牧畜関係書類、予算経費・収入簿、牛乳搾出・豚牛鶏飼料簿、収穫物等払下簿、証書綴、物品台帳、人員使役簿、出勤簿等）など

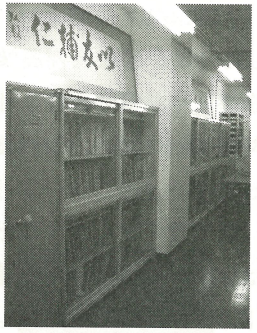


図３　書棚に並ぶ札幌農学校簿書

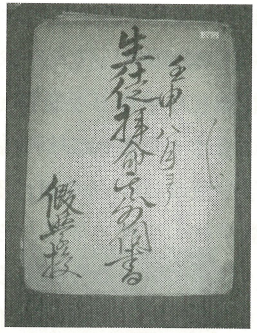


図４　開拓使仮学校期の簿書

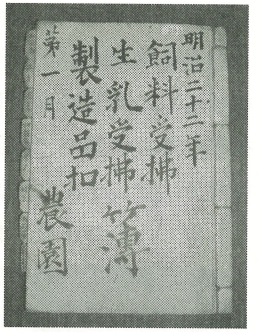


図５　札幌農学校農園の簿書

３．札幌農学校簿書の活用をめぐって

「札幌農学校簿書」は、創基50周年以来、大学沿革史編纂の一次資料として、特に、“制度史”の視点からとり上げられ、重用されてきた。一方、大学文書館では、2006年７月、札幌農学校第14期生の平塚直治の受講ノート４冊（宮部金吾講義「植物学（隠花植物）」、新渡戸稲造講義「農政学」、佐藤昌介講義「農業経済学」、南鷹次郎講義「園芸学」）を受贈したことを契機に、「札幌農学校簿書」を新たに“学業史”の視点からとり上げて活用することに力を注いでいる（図６、図７）。



図６　第14期生卒業記念（1896年7月）
後列左から２人目が平塚。前列左から南、宮部、佐藤、新渡戸、吉井教授（植物園所蔵）

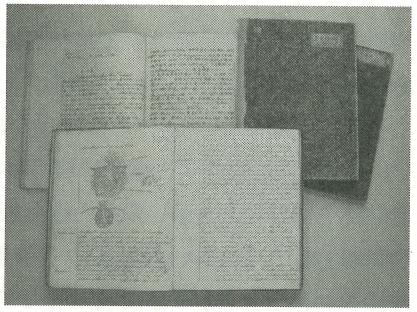


図７　平塚直治受講ノート
前列は宮部講義、後列は左より新渡戸、佐藤、南講義（大学文書館所蔵）

札幌農学校は、修業年限４年の本科（農学科、工学科）に限ると、農学士（１～24期生）382人、工学士（１～７期生）16人を輩出した。ほかに、札幌農学校は本科に入る階梯として設置した予科（予備科・予修科）や、実業教育を目指した農芸伝習科（農芸科）、土木工学科、森林科（林学科）等を付設しており、札幌農学校に学んだ生徒・学生数は1,000名を超える。

しかし、これまで、札幌農学校の生徒・学生たちが、農学校でどんな科目をどのように学び、修学旅行・課外活動・寮生活あるいは自炊共同生活などを通して、どのような学業生活を送ってきたのか、具体的に明らかではなかった。そこで、大学文書館では、公文書である「札幌農学校簿書」と私文書である個人資料の両面からアプローチして、札幌農学校史を新たに解明していくことを計画している。

本章では、「札幌農学校生徒の学業史に関する研究」の一例として、平塚直治に係る事例研究から、「札幌農学校簿書」の活用を紹介し、「札幌農学校簿書」の特色を浮かび上がらせることとする。

＜平塚直治の在学期間＞

平塚直治は、1896（明治29）年７月７日、札幌農学校農学科を第14期生総代として卒業した。平塚が札幌農学校に在学した期間は、予備科・予科生徒（1888～92年）、農学科学生（1892～96年）、研究生（1896年）の期間を合わせて約８年間に及ぶ。その時期は、丁度、札幌農学校の教授陣が外国人教師から第１、２期生の佐藤昌介・新渡戸稲造・南鷹次郎・宮部金吾等に切り替わった時期にあたる。

＜受験＞

「札幌農学校簿書」No.877には、平塚直治が、1888（明治22）年８月、札幌農学校予備科入学試験を受けた際に提出した「出願書類」が綴られている。「出願書類」は入学証書、履歴書の２種類である（図８、図９）。履歴書には経歴のほか、志願者がこれまで利用した学習書（用書）の記載がある。当時の予備科受験に相当する学力や、北海英語学校・敬業塾といった私塾の教育内容がそこから推察できる。

例えば、英語は読本に『ユニオン・リーダー』第３巻、『ウィルソン・リーダー』第２巻、スウィントン、ナショナルの両リーダー第４巻の学習程度であり、当時の尋常中学校の入試科目よりもやや上級であった。志願者が記した書籍には、当時の札幌農学校蔵書中に確認できるものも数多く、農学校内で使用していたこともうかがわれる（図10）。

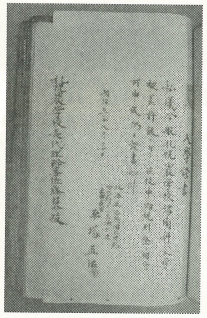


図８　入学証書（1888年）
（札幌農学校簿書 No.877）

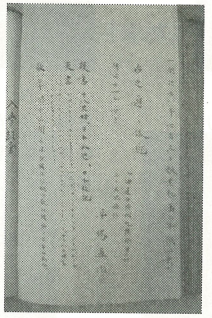


図９　学習書を記した履歴書（1888年）
（札幌農学校簿書 No.877）

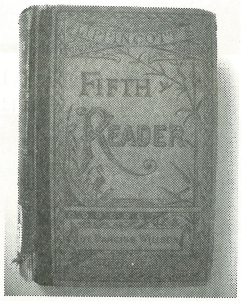


図10　ウィルソン・リーダー
札幌農学校文庫にみる学習書
（附属図書館貴重資料室所蔵）

＜講義＞

平塚が在籍した当時の札幌農学校予備科・予科・農学科のカリキュラムの復元についても、基本となった資料は「札幌農学校簿書」である。課程表は、「札幌農学校簿書」（図11）、『札幌農学校一覧』（図12）を中心に復元し、履修表は「札幌農学校履修記録」（「札幌農学校簿書」から抜き出し、別置された資料）、平塚直治の受講ノート全リスト（遺族が保管する受講ノート28冊のリスト）、当時の学生の回想録（松村松年、高岡熊雄ほか）などから作成が可能となった（復元した予科課程表・履修表、農学科課程表・履修表は拙稿「平塚直治受講ノート（西信子・西安信氏寄贈）をめぐって――札幌農学校第14期生の学業史――」『北海道大学大学文書館年報』第２号、2007年３月、１～28ページを参照されたい）。

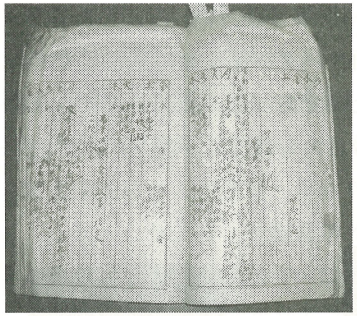


図11 授業時間割（1888年）
札幌農学校簿書No.381には、1888年1月から翌年までの本科・予備科授業時間割の一部が綴られている。

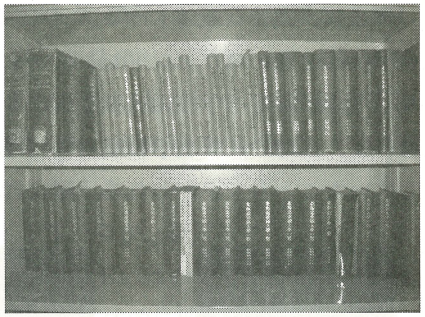


図12『札幌農学校一覧』ほか
校則・規程、職員録、学生生徒・卒業生名簿等の札幌農学校の基礎データが得られる刊行物（附属図書館北方資料室所蔵）

＜課外活動＞

1894（明治27）年９月、「実科演習仮規程」の施行により、３年級であった平塚は、植物病理学を専攻した。以後、平塚は４年級の高橋良直、千石興太郎、黒澤良平と共に、宮部金吾教授から本格的に専門指導を受ける（図13）。

植物病理学に関心を抱いていた平塚の課外活動における活動は、「札幌農学校簿書」の中にも垣間見える。例えば、夏期休暇を利用して、高橋良直とともに、



図13 植物学教室員（1895年）
後列左端が平塚、前列左端が宮部教授（植物園所蔵）

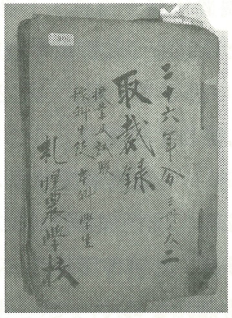


図14 諸届が綴られた簿書「取裁録」(1893年)
（札幌農学校簿書No.906）

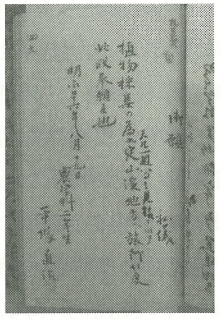


図15 植物標本採集旅行願（1893年）
（札幌農学校簿書No.906）

1893年８月20日より約１週間、定山渓方面へ出掛けて植物標本の採集を行なっていることなども外出時の届出「御願」として記録が残っている（図14、図15）。

＜修学旅行＞

当時、札幌農学校では、植物学、地質学、動物学及び工学の実地研究のため、本科学生を道内各地にたびたび派遣した。これは「修学旅行」と呼んでいた。1892（明治25）年以降の「修学旅行」については、「札幌農学校簿書」に「修学旅行報告書綴」が30数冊あるほか、『恵林』・『学芸会雑誌』といった校友会誌に記録記事の掲載がある。

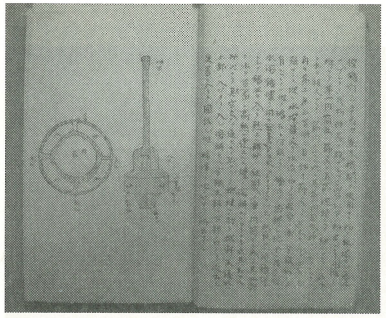


図16 地質学修学旅行報文（1894年）
（札幌農学校簿書No.450）

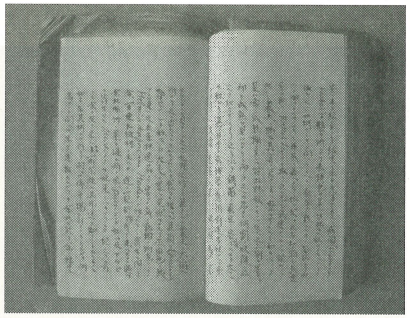


図17 修学旅行報文（1895年）
（札幌農学校簿書No.501）

平塚が参加した修学旅行については、1894（明治27）年５月10日より３泊４日、石川貞治助教授（第７期卒）の引率のもと、平塚を含む農・工学科２年級が地質学の実地研究のため、余市郡内のポンシカリペツ鉱山の実況視察ならびに高島・忍路・余市３郡にわたる地質見学旅行したものと、1895（明治28）年５月18日～７月10日の53日間にわたり、第４回内国勧業博覧会（京都）の観覧を目的とした札幌～神戸間本州旅行という、２つの修学旅行が「札幌農学校簿書」から確認できる。

前者の地質学修学旅行では、平塚が代表として報告書「地質学科修学旅行報文」を佐藤昌介校長に提出した（図16）。報文の中で、平塚は、出張旅程や見

学内容を地質学的な知見から丁寧に報告している。後者の本州修学旅行についても、植物病理学専修生としての自覚と自信にあふれた「修学旅行報文」を平塚は提出している（図17）。

＜研究生＞

当時、札幌農学校では、本科卒業生の中から「学力優等才能抜群」な者を選び、学資を支給し、研究期限を１年以上３年以下として、学術調査や学生授業の補助を行わせる「研究生」制度を設けていた。1896（明治29）年７月、平塚は第14期生として札幌農学校を卒業し、「研究生」として植物病理学の研究を続けた。

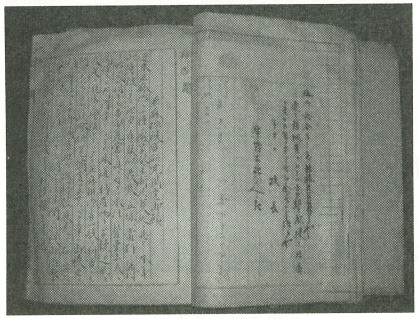


図18 亜麻立枯病調査関係の文書(1896年)
（札幌農学校簿書 No.520）

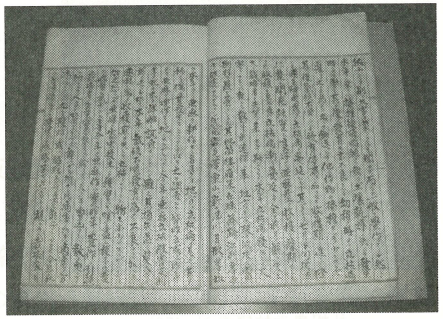


図19『亜麻立枯病研究報告書』(1896年)
（附属図書館北方資料室所蔵）

研究生当時の状況を知り得たのは、「札幌農学校簿書」No.520に綴られた書類からである（図18）。1896年７月～９月にかけて、研究生の平塚は、宮部金吾教授の指導のもと、北海道製麻株式会社が札幌農学校に依頼した「亜麻立枯病調査」に従事した。この調査における一連の往復文書が「札幌農学校簿書」No.520に綴られている。さらに、附属図書館北方資料室蔵書の中に、平塚直筆による調査報告書（毛筆原稿）が現存しており、札幌農学校の農園等において平塚がどのように試験調査を実施していたのか具体的に知り得る（図19）。

むすび

平塚直治をめぐる事例研究で見てきたように、「札幌農学校簿書」は、入学願書、外出等の諸届、修学旅行報文をはじめとした、学生直筆の記録が数多く綴られている特色がある。学生が外出時に届け出た「御願」１枚でも、当時の札幌農学校の学生生活を物語っていることは明らかである。ひとりの学生が在籍していた学業記録が、「札幌農学校簿書」からどの程度抽出できるのかを考察する上でも、平塚直治をめぐる事例研究はその試みであったと言える。

今後、大学文書館では、平塚直治の受講ノートの覆刻を計画している。それにより、公文書（札幌農学校簿書）と私文書（受講ノート）の両面から、札幌農学校の実態が浮かび上がることを願っている。

また、表３に掲げたように、大学文書館では、平塚直治の受講ノート以外にも、ご遺族をはじめとした関係者の皆様から、札幌農学校卒業生の個人資料を寄贈いただいている。その中から、川嶋一郎（札幌農学校第23期生）関係資料、高岡熊雄（札幌農学校第13期生）関係資料を紹介し、大学文書館における計画をそえて、むすびとしたい。

＜川嶋一郎（札幌農学校第23期生）関係資料の紹介＞

2007年６月、大学文書館では、川嶋一郎関係資料をご遺族から受贈した。

川嶋一郎（1880～1976）は、1902（明治35）年札幌農学校予修科を卒業、同校本科に進学した。本科では、橋本左五郎教授のもとで畜産学を専攻し、第23期生として1906（明治39）年に卒業、農商務省月寒種牛牧場の技師となった。

受贈した川嶋一郎関係資料は、日記３点、アルバム１点、書簡類15点など31点である（図20）。例えば、札幌農学校在学中の日記（1903～04年）では、当時の講義・試験・実習のほか、遠友夜学校教師としての活動、教師仲間の足助素一、逢坂信悉、半澤洵などとの交友も記されており、農学校の学業生活と課外活動がうかがえる（図21）。

今後、日記３点については、大学文書館において翻刻をすすめる計画である。翻刻により、有島武郎・足助素一・森本厚吉等を輩出した1900年代前半の札幌

農学校史を再検討したい。



図20　遠友夜学校教師をつとめた札幌農学校学生（1904年）
左端が川嶋、右端が足助（大学文書館所蔵）

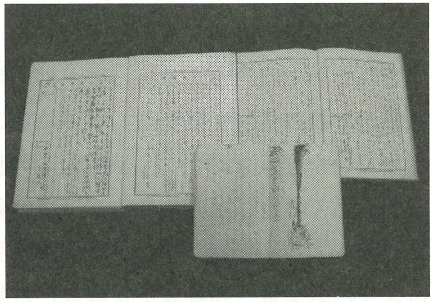


図21　川嶋一郎日記
後列左より「明治36年当用日記」、「明治37年当用日記」。前列は「明治37年北海紀行」（大学文書館所蔵）

＜高岡熊雄（札幌農学校第13期生）関係資料の紹介＞

高岡熊雄は、1891（明治24）年に札幌農学校農学科に進学し、佐藤昌介、新渡戸稲造のもとで、農業経済学を専攻した最初の学生である。卒業後はドイツ留学を経て、母校の農政学殖民学講座の担当教授となり、北海道帝国大学第３代総長もつとめた。

2006年10月、2007年２月、大学文書館では、高岡熊雄関係資料をご遺族から受贈した。それらは、札幌農学校卒業証書、書簡541通、アルバム29冊、写真223点、手帳（研究ノート・日記断片）63冊など、総数1,000点を超える（図22）。

書簡の中では、恩師である新渡戸稲造、農学校において１期後輩の大村卓一（のちに満鉄総裁）からのものがともに13通で最多であり、駒井徳三、東郷実、早川鐵治など札幌農学校より継承されてきた農業経済学における人的つながりを読み解くことができる（図23）。

高岡熊雄関係資料については、それ以前、1980年５月、ご遺族より附属図書館北方資料室へ約1,300点の資料をご寄贈いただいている。資料の内訳は、受

講及び講義ノート、手帳、日記、著書・論文原稿など、高岡熊雄が札幌農学校に入学してから晩年に至るまでの旧蔵資料である。これらの旧蔵資料も、2007年２月、大学文書館へ移管となった。

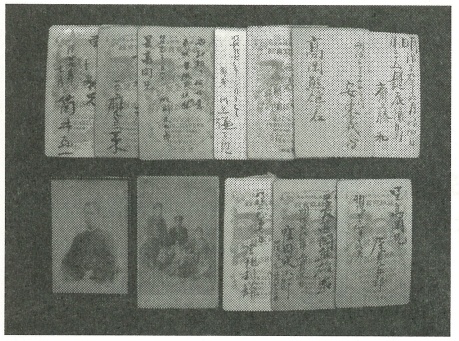


図22　高岡熊雄に贈られた同窓生の肖像写真
明治20～40年代撮影の約85点（鶏卵紙）、贈呈文やサインが毛筆で裏書きされている（大学文書館所蔵）



図23　高岡熊雄宛書簡
上段の絵葉書3点は大村卓一から、上段右下の赤鬼絵柄の絵葉書と下段書状が新渡戸稲造からのもの（大学文書館所蔵）

今後、高岡熊雄関係資料については、全資料の目録を作成し、予科・農学科在籍時の日記については翻刻を進め、受講ノートの内容分析等を行なうことを計画している。